令和６年度　　令和６年３月16日（土）実施

興南高等学校

入学試験問題

後　期

国　語（50分　100点）

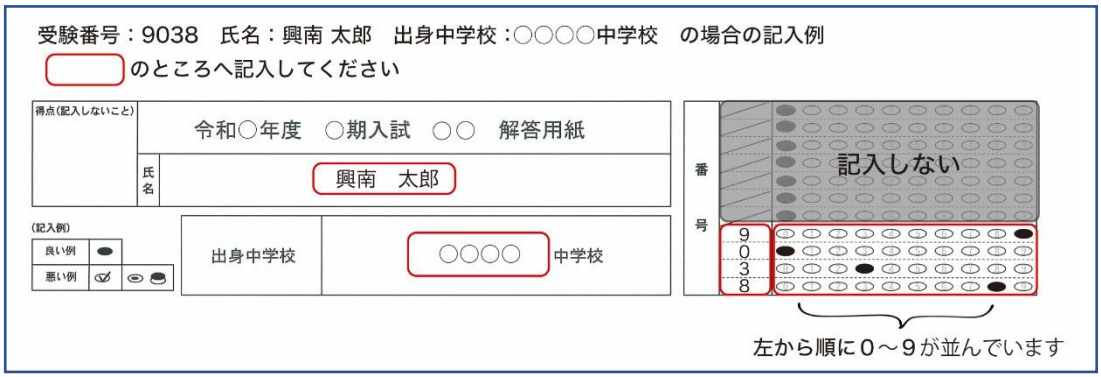
＜注意事項＞

① 試験開始の合図があるまで，この問題用紙は開かないようにしてください。
解答用紙は別になっています。

② 問題は 【一】 ～ 【三】 まで３題あります。

③ 試験時間は50分です。

④ 解答用紙には，以下の例にならって受験番号，中学校名，氏名を必ず記入してください。



⑤ 解答は解答用紙の所定のところに記入してください。

⑥ 解答は楷書（かいしょ）で丁寧（ていねい）に記入してください。

⑦ 試験終了後，問題用紙は持ち帰ってください。

【一】 次の文章を読み、後の各問いに答えよ。また、答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

1 友情を問い直すためには、それに先立って、友情とは何であるかがバクゼン[a]と理解されていなければならない。私たちは、ぼんやりとはわかっているが、はっきりとはわかっていないことこそ、問うことができるからだ。

2 さしあたり友情は、互いの感情だけをつながりとする関係性である、と定義することができるだろう。そしてここから友情に備わる次のような性質が導き出せる。

3 第一に、友情とは、契約に基づかない関係である。たとえば恋愛をするとき、人は基本的には契約をする。「付き合ってください」と告白し、それに対して合意を得ることで、はじめて関係性が成立する。そうした契約を伴わない恋愛はボウリョク[b]に発展する可能性があり、望ましくない。それに対して、友情が契約に基づくことはほとんどないし、あったとしても不必要であると思われる。たとえば誰かと友達になるとき、「友達になってください」と告白し、合意を得ることはあまりない。

4 また、第二に、友情とは誰からも管理されない関係である。たとえば家族は戸籍という形で国家に管理されている。国家は、「私」が誰と家族であるかをハアク[c]しており、問題が生じれば「私」に対して何らかの働きかけをしてくる。しかし、私たちは自分が誰と友達であるかを誰にも申請しない。だからこそ、国家は「私」が誰と友達であるかをハアクすることができない。したがって、友情を管理するのは、その友情を交わしている当事者だけ、つまり友達同士だけである、ということになる。

5 そして第三に、友情とは、常に解消可能な関係である。たとえば恋愛において、関係を終わらせるには別れ話をしなければならない。夫婦が離婚するためには国家に対して離婚届を提出しなければならない。これらの関係性において、自分以外の誰

かからその承認を得なければ、「私」はその関係を解消することができない。しかし、友情の解消にそうした承認は必要ない。友達のうちの一方が、もうその友情を終わらせたいと思えば、その瞬間に関係性は解消されるのである。

6 友情とは、［　X　］。これらは、友情が満たさなければならない条件として、前提にしても構わないだろう。そして、ここから導き出される帰結は、友情は本質的に不安定である、ということだ。

7 私たちが誰かと友達になったとしても、その関係を「私」の代わりに保証してくれるものは、何もない。友情は常に存続の危機に立たされている。友情を継続するためには、友達との関係を配慮し続け、友達に対して働きかけなければならない。炎に薪をくべ続けるように、自ら関わりを作り出さなければならないのだ。そうした活動を少しでも怠れば、友情は簡単に解消されてしまう。だからこそ①誰かと友達でい続けることは、新しい友達を見つけることよりも、はるかに難しいことなのである。

8 哲学の議論において、しばしば、②友情は「友愛」という概念と混同されてきた。しかし、両者はその成り立ちからしてまったく別の概念である。今後の議論の混乱を避けるためにも、ここで両者の違いを確認しておきたい。

9 「友愛 fraternity」は、*1ラテン語で兄弟関係を意味する fraternitas に[d]端を発する概念であり、キリスト教の伝統のもとで、教会や修道会を指す言葉として用いられた歴史がある。この言葉を原義に忠実に訳すなら、「兄弟愛」となる。キリスト教の世界観において、この世界は父なる神によって創造されたと考えられているため、人類は誰であっても兄弟として理解されることになる。この意味で兄弟愛とは、言い換えるなら、人類への愛に他ならない。したがって、キリスト教的な文脈において、友愛はすべての人を分け[e]へダてなく愛すること、そうした［　A　］性を本質とする概念であると言える。

10 それに対して、「友情 friendship」は、古代ギリシャ語の philia に端を発する概念であり、当時は賞賛に値する男性同士の関係性を指していた。それは、キリスト教的な文脈のなかですべての人を愛そうとする友愛とは異なり、愛されるに値する

者と関わることである。ある人と友情を交わすのは、その人の何かを「私」が愛するからであり、その人が誰でもいいわけではない。私たちは、その人が他の誰でもないその人だから、その人と友達になるのだ。この意味において、[B]性を本質とする友愛に対し、友情は[C]性をその本質としている。

[11]ただし、友愛という概念は近代以降に*2世俗化し、フランス革命では民主的統合の象徴として位置づけられるようになったことでも知られている。一八四八年の*3フランス第二共和政の憲法では、「自由」と「平等」と並ぶ第三の理念として掲げられた。その過程で、「友愛」はむしろ自分たちの仲間への愛、共同体の成員への愛へと変容し、この概念がもともと有していた[D]性を失い、[E]的な側面を持つことになる。そしてそれが、友情と友愛を区別することを困難にしているのだ。

【　戸谷　洋志『友情を哲学する』光文社新書　※問題作成の都合上、一部改変　】

［語注］

＊1ラテン語…ギリシア語と共に欧米諸国の学芸に最も関係深い言語。ローマ帝国の共通語でもあり、中世以降も学術用語として使用された。

＊2世俗化…社会や文化において宗教や聖なるものの影響力が弱まること。また、宗教や聖なるものが俗世間的な傾向を帯びること。

＊3フランス第二共和政…一八四八年の二月革命によって国王がイギリスへ亡命し、その後に始まるフランス史上二度目の共和政（世襲の国王が元首となる君主政に対し、国民の選挙で選ばれた代表者を元首とする政治）のこと。

問一　二重傍線部a～eのカタカナは漢字に、漢字はひらがなになおして答えよ。

a　バクゼンと理解され　　b　ボウリョクに発展する　　c　ハアクする　　d　端を発する　　e　分けヘダてなく

問二　次は空欄部 X に入る文章である。（Ⅰ）～（Ⅲ）に当てはまる言葉を後述の条件に従い、本文中から抜き出して答えよ。（Ⅰ）には六字、（Ⅱ）には八字、（Ⅲ）には九字の言葉が本文から引用される。

（　Ⅰ　）ず、（　Ⅱ　）ず、（　Ⅲ　）である

問三　傍線部①「誰かと友達でい続けることは、新しい友達を見つけることよりも、はるかに難しい」とあるが、その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　友情とは「私」のみが保証できるものであり、友達との関係を配慮し続け、友達に働きかけ続けてその関係を常に自覚しなければ失われるため、新たな友人を見つけるより困難だということ。

イ　友情とは恋愛と異なり契約に基づかない関係であり、夫婦と異なり常に解消可能な関係であるため、その関係を保証するものがなく、新しい友達を見つけるよりも維持する方が難しいということ。

ウ　友情とは不安定なものであり、その関係を維持するためには友人に配慮したり働きかけ続けたりしなければ簡単に解消されてしまうため、新たな友情を築くことよりも難しいということ。

エ　友情とは契約に基づかない関係で恋愛の告白のように合意を得ることはあまりなく、そのために友人関係とは不安定で自覚されにくいものであり、新たな友情を築くのは難しいということ。

問四　傍線部②「友情は「友愛」という概念と混同されてきた」とあるが、「友情」と「友愛」の両者の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　「友情」は古代ギリシャ語のphiliaにゆかりがある言葉で、本来は自身を愛してくれる者と関わることを意味する。

イ　「友情」と「友愛」はフランス革命以後、まったくの同義語として扱われるようになり区別することがなくなった。

ウ　「友愛」をラテン語の原義に忠実に訳すならば兄弟愛となり、キリスト教において兄弟愛とは人類愛を意味する。

エ　「友情」は古くから同じ社会に属する者への愛を意味する言葉であり、近代以降の「友愛」の意味と区別しづらい。

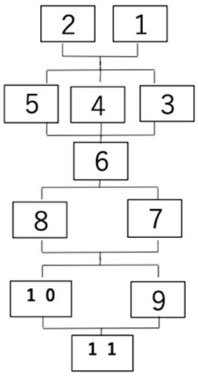
問五　次に示すのは国語辞書の「排他」（資料１）と「包摂」（資料２）の項目である。それを参照し、本文の空欄部Ａ～Ｅに当てはまる適当な語句がどちらなのかを答えよ。排他の場合はア、包摂の場合はイで答えること。

資料１　【排他】
他の者を排斥（はいせき）すること。自分の仲間以外の者をすべてしりぞけること。

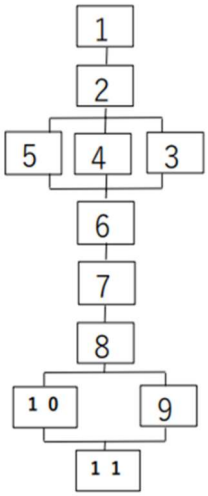
資料２　【包摂】
ある事柄を一定の範囲の中に包み込むこと。ある範囲に包み入れること。

問六　本文の段落構成として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

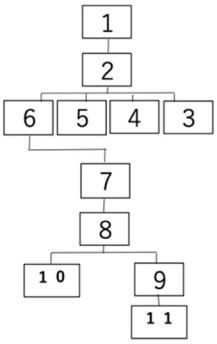
ア



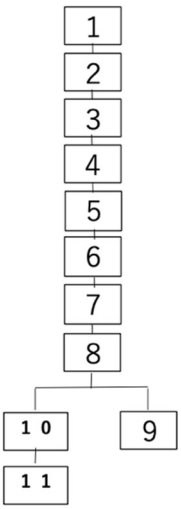
イ



ウ



エ



問七　本文の内容や展開の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　友情とは互いの感情だけをつながりとする関係であり、自ら積極的に働きかけなければ新しい友人は見つけられない。

イ　恋愛や家族関係など、友情以外のすべての親密な関係は国家に管理され干渉されるものだが友情はその限りではない。

ウ　筆者は「友情」について考える上でまず定義を行い、そこから複数の性質を導き出し、「友愛」と「友情」を区別した。

エ　筆者は「友情」と「友愛」の区別を行うために、まず「友情」を定義し、その上で「友情」の性質を分析してみせた。

【二】次の【文章1】【文章2】を読み、後の各問いに答えよ。また、答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

【文章1】　佐多稲子「水」

母親が死んでしまう、という実感にそそられて、はじめて幾代(いくよ)は、自分と母親との①つながりの深さに気づいた。それは幾代にとって唯一の安心の場所が無くなることだった。幾代が自分の身体の引け目を感ぜずにすむのは、母親の前だけであったと気がつくからだった。幾代の身体の悲しさが、もし母親の言うように前世からの約束ごとならば、その罪は母親もいっしょに被るものだった。あるいは母親の罪のために幾代が悲しみを背負っているのかもしれなかった。幾代は母親の労苦を知っていたからそんなことを口に出しもしなかったけれど、兄や姉の前にさえ勝気(A)にふるまう意識の操作を、母親に対してだけは感ぜずにすんだ。

その母親が死んでしまう。一刻も早く、母親の前に行って、母親と一緒に泣きたかった。母親はすでに死んでいるのかもしれない。が、幾代には母の姿は、木綿(もめん)の薄い*1夜具(やぐ)の中に眠っている姿でしか想像できなかった。そこにまだ母親は存在しているはずだった。幾代はそんな母親を想像すると、今までの感情になかった性質の哀れみで、可哀想、と切実に感じた。もう母親はすべてに対してすっかり無力になっているにちがいないからであった。しかもその②哀れみの感情は、幾代自身にも及ぼして、激しい悲哀がこみ上げていた。昨日の電報のとき、主人に負けてしまった自分の弱さから、母親まで敗北のまき添えにしたような口惜しさがあって、幾代の悲哀を深くしていた。

幾代はもう完全にひとりになるはずだった。ひとりになるということは、彼女の身体の悲しみの重さを、ひとりで背負ってゆくことだった。ホームの混雑は幾代をひとり疎外しておのおのの行方に気負い立っていた。幾代の方でも、その騒がしさ

は無関係だった。

幾代の乗るはずの列車がホームに入るまでまだ一時間待たねばならなかった。彼女がしゃがんでいる前の列車は、いよいよ発車するらしかった。合図のベルがホームに流れた。それを*2しおに、幾代は鞄を抱え腰を立てて立ち上った。泣きつづけた彼女の小さな顔は、色白の皮膚を晒(さら)したように赤みを消して、瞼(まぶた)が垂れ、細い目がいよいよ細くなっていた。

幾代は、動きだした列車と反対の方向に、重い足で歩き出した。彼女の肩が歩調にともなって、ゆっくり揺れた。彼女はそのとき、列車の窓の視線に自分をあからさまにしたわけだった。

駅員詰所の建物の先きに水道があった。水道の蛇口はさっきから水を出しっ放しであった。駅員が薬(や)かんに水を汲んでそのままくるりと身体をまわして元気に行ってしまってからあと、水は当てなしに流れつづけていた。そのそばを通ってゆくものも多かったが、誰ひとり蛇口の栓を閉めなかった。

幾代は、悲しみを運んでそこまで歩いてきた。顔を上げているので、瞼をあふれた涙が頬に筋を引いた。が、幾代は、水道のそばを通り抜けぎわに、蛇口の栓を閉めた。音を立てて落ちていた水がとまった。が、幾代は自分のその動作に気づいてはいないらしかった。それは無意識に行われただけだった。列車は音を立てて出てゆき、明るくなったあとに街の眺めが展(ひろ)がった。が幾代は、再びもとの場所にもどってしゃがみ込むと、今までと同じように泣きつづけた。その場所に、さえぎるものがなくなって春の陽があたった。

［語注］

＊1夜具…夜、寝るとき用いるふとん・毛布などの総称。寝具。　＊2しおに…ちょうどよいときに。しおどきに。

【文章２】　田中慎弥「泣くしかない時でも」

主人公の幾代は作品の冒頭で泣いていて、ここに引用したラストシーンでもまだ泣いている。場所は上野駅のホーム。母が亡くなったとの電報を受けて、これから故郷の富山へ帰るのだ。泣きっ放しで当り前だ。亡くなる前に*1危篤（きとく）の電報も受け取ってはいたが、勤め先の主人がすぐには帰してくれず、とうとう死に目に会えなかった。

幾代は父親を五歳で亡くした。それ以降、三人の子どもを抱えて苦労してきた母を、自分が働いたお金で*2湯治（とうじ）に行かせてやりたいとの思いから、*3縁故（えんこ）を頼って旅館に住み込みで職を得た。左脚が少し短いというハンディキャップを持ちながらも、懸命に働き、周囲に認められてきた。旅館の主人も、彼女に優しい言葉をかけてくれた。なのに、よりによってこの時は繁忙期（はんぼうき）を理由に、幾代に、帰ってやれとはすぐには言ってくれなかった。人間としてたとえようのない悲しみに沈んでいるのに、身近な他人から冷たい接し方をされる。やっぱり泣いて当り前、こうなったらとことん泣くしかない。

共産党に入党するなどの経歴があり、*4プロレタリア作家としての印象が強い（印象ではなく実際にそうだったのだが）佐多稲子だから、この短編もまた、不遇に負けない労働者のけなげな姿を、冷酷な旅館の経営者と［　1　］させて描いてある、という読み方が可能だが、政治性、党派性があからさまに謳（うた）われているわけではない。説教臭い小説ではない。悲しみに包まれた女性が、力強く前を向き、逞（たくま）しく生きてゆく、という終り方にはなっていない。

では幾代はどうするか。どうもしない。ただ泣いている。勿論、彼女が最後に取る行動が分りやすい文章によってきちんと描かれてはいる。列車が出ていったあと、明るく照らし出される彼女の姿を、読者は目撃する。まさしく③名場面と呼べる終り方だ、と胸うたれる。

だが、④幾代の行動は、決して固い決意がもたらしたものではない。書かれている通り、無意識の結果だ。それをすることで

悲しみが減るわけではない。自分自身にも、自分を取りまく世界にも、ほとんどなんの影響も与えはしない。なんの意味もない。報われもしない。誰かがこっそり陰から見ていて、あとでよくやったと褒めてくれたりはしない。だからこそ、栓を閉めて止った水と、幾代がいつまでも流し続ける涙の［　1　］が、静かで劇的[B]な場面として読者に刻まれる。

【　文章1：佐多稲子「水」　文章2：田中慎弥「泣くしかない時でも」　両文とも『名場面で味わう日本文学60選』　】

【　※問題作成の都合上、一部改変　】

［語注］

＊1危篤…病気や怪我が重く生命の危ういこと。　＊2湯治…温泉に入って病気を治療すること。

＊3縁故…血縁などのつながり。また、人と人とのつながり。

＊4プロレタリア作家…プロレタリア文学を執筆する作家。プロレタリア文学とは、一九二〇年代から三〇年代前半頃にかけて流行した文学で、主に労働者の直面する厳しい現実を描いた文学作品などのこと。

問一　二重傍線部A「勝気にふるまう」の意味として適当な選択肢と、B「劇的」の対義語として**適当でない**選択肢を次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えよ。

A「勝気にふるまう」　ア　隙をみせないよう強い姿勢を示す　イ　負けまいとしてかまえる　ウ　弱みを補おうと人より努力する　エ　必要以上にけんか腰になる

B「劇的」　ア　現実的　イ　散文的　ウ　一般的　エ　日常的

問二　傍線部①「つながりの深さ」とあるが、その「つながり」の具体的な説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　母が亡くなるかもしれない事態になって兄や姉にさえ心を許すことができない自分に気がつき、唯一安心できる母の存在と自分とが深く繋がっていると確信した。

イ　母の前では自分の身体に引け目を感じなかったことに気がつき、次第に母との会話の内容や過ごした時間が思い起こされ、自分と母との深いつながりを感じた。

ウ　自分の身体のハンディキャップが前世に由来するなら、その罪は母も一緒に被るものか、母の罪によるものであり、自分と母にはそうしたつながりがある。

エ　苦労の多い母を気遣い、自身の身体のハンディキャップについては話すことがなかったが、自分と母には言わなくても通じ合えるほどの深いつながりがある。

問三　傍線部②「哀れみの感情」とあるが、その説明として**適当でない**ものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　病にふせる母を思う時の、今までの感情になかった性質の哀れみ。

イ　もうすっかりすべてに対して無力になっているであろう母への哀れみ。

ウ　昨日主人に負けたことに関連して幾代の悲哀を深くさせる哀れみ。

エ　もう母は死んでいるかもしれず、一緒に泣くことさえできない哀れみ。

問四　空欄部 1 に当てはまる言葉を漢字二字で答えよ。

問五　傍線部③「名場面」とあるが、ここで述べられている場面の説明として適当なものを次のア～カからすべて選び、記号で答えよ。また、適当な選択肢がない場合は「なし」と答えること。

ア　溢れ出ていた水が蛇口をひねることで止まる描写により、幾代の悲しみにも区切りがついたことを象徴する場面。

イ　明るく広がる街を見たことで、幾代の悲しみが次第に春の陽のように朗らかなものへ変化することを暗示する場面。

ウ　今はまだしゃがみ込んだまま泣くしかない幾代だが、春の陽のように明るい未来が必ず訪れることを暗示する場面。

エ　春の陽に照らし出される幾代は、たとえ一人ぼっちでも母との思い出によって真に孤独ではないことを象徴する場面。

オ　幾代の蛇口をしめた行動は無意識でも、きっと誰かがそれにより助けられるという優しさを春の陽が象徴している場面。

カ　今は母を亡くし、悲しみに包まれる幾代が、いつかは力強く前を向き逞しく生きてゆけることを暗示している場面。

問六　傍線部④「幾代の行動」とあるが、その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　蛇口の栓を閉めた後、再びもとの場所に戻って泣いた。

イ　音をたてて蛇口から溢れ出ていた水がとまった。

ウ　出しっ放しになっていた水道の蛇口の栓を閉めた。

エ　列車が発ったことでホームに広がった街の景色を眺めた。

問七　次は【文章１】と【文章２】を読んだ生徒による対話の様子である。【文章１】【文章２】の内容の理解として明らかに**適当でない**生徒を次のア～カから**すべて選び**、記号で答えよ。また、適当な選択肢がない場合は「なし」と答えること。

ア　生徒Ａ―小説の舞台は東京の上野駅のホームのようだね。幾代が列車に向かう駅は混雑している。人がたくさんいるのに、そのことがかえって彼女を孤独に描き出している。

イ　生徒Ｂ―電車ではなく列車というところや、電報が連絡の手段というところにも時代を感じたな。「主人に負けてしまった」という意味がいまいちわからなかったけれど・・・。

ウ　生徒Ｃ―それは【文章２】で「勤め先の主人がすぐに帰してくれず」と説明されていたから、危篤の母のもとに帰りたいと申し出たけど「冷たい接し方」で断れられて、すぐに帰れなかったことを「負けてしまった」とか「母親まで敗北のまき添えにした」と感じたんだろう。

エ　生徒Ｄ―幾代は母親に対して他の家族、たとえば兄弟と比べても、特別に強い感情をもっていたわけだから、許してくれなかった主人に対して強い憎しみをもつのもあたりまえだよね。

オ　生徒Ｅ―幾代は【文章１】に引用されていない作品の冒頭部分でも泣いていて、引用されているラストシーンでも泣いている。最後の場面はホームが明るくなったり春の日差しが射したりしてあたたかい印象の場面になるけど、それでも泣いている。

カ　生徒Ｆ―【文章２】では、彼女のおかれた状況を泣きっ放しで当たり前で、こうなったらとことん泣くしかないと評されている。ただただ泣く、無意識に蛇口をしめる。どちらもほとんど自分の周りの世界に影響を及ぼすこともないけど、でも、それがある意味ではとても人間らしくて、作品のリアルさに繋がっているともいえるね。

【三】次の文章を読み、後の各問いに答えよ。本文（原文）の左に示してあるものは対応する現代語訳である。また、答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

比叡山に正算僧都という人がいた。正算僧都はたいそう貧しかった。京の都には母がいるが、こんな時に頼るのもかえって辛いと思い、この様子を聞かれまいと思っていたが、母は雪の中の心細さを想像したのであろうか、あるいはもしかして何かのついでに小耳に挟んだのだろうか、使者を介して母からちょっとした品物を添えた親切な便りがあった。

思ひ寄らざる程に、いとありがたくあはれに覚ゆる。中にも、此の使ひの男の、A いと寒げに深き雪を分け来たるがB いとほしければ、まづ火など焼きて、この持ち来たる物して食はす。① 今食はんとするほどに、箸うち立て、② はらはらと涙を落して、食はずなりぬるを、いとc あやしくて、a ゆゑを問ふ。答へて云ふやう、b 「この奉り給へる物は、なほざりにて出来たる物にても侍らず。方々尋ねられつれども叶はで、母御前のみづから御ぐしのしたを切りて、人にたびて、其の替りを、わりなくして奉り給へるなり。只今、これをたべむと任るに、かの御志の深きあはれさを思ひ出でて、下臈にては侍れど、いと悲しう

思いがけなかったので、
しみじみと心動かされる。
彼が持参してきた物を与えて
（母上が）差し上げなさった物は、いいかげんにして手に入れた物
あちこちお探しになっても手に入らず
髪の毛
与えて
無理して
差し上げたのである。
（私は）身分の低い者ですが、

て、胸ふたがりて、いかにも喉へ入り侍らぬなり」と言ふ。これを聞きて、おろそかに思へんやは。やや久しく③涙流しける。

胸がいっぱいで　　おろそかに思うはずがない。　　しばらく

すべて、あはれみの深きこと、母の思ひにすぎたるはなし。愚なる鳥獣までも、其の慈悲をば具したり。田舎の者の語り

慈悲の心を備えている。

侍りしは、「雉の子を生みて暖むる時、*1野火にあひぬれば、一たびは驚きて立ちぬれど、なほ捨てがたさの余りにや、④煙の中にかへり入りて、つひに焼け死ぬる⑤ためし多かり」とぞ。

結局死んでしまう例

又、鶏の子を暖むる様は、誰も見る事ぞかし。毛のへだたりたるをあかず思ふにや、⑥みづから胸の毛を食ひ抜きて、膚につけて、終日これを暖む。物はまむ為に、おのづから立ち去りても、かれが冷めぬほどにと急ぎ帰り来るは、おぼろげの志とは見えず。

誰もが見たことがあるだろう。毛によって身を隔てているのが嫌で思うからであろうか、　　えさをとるために　　たまたまその場を離れても、　　卵が　　並大抵の愛情

又、そのかみ、古郷わたりに、⑦思ひの外に世を遁れたる人ありき。「事のおこりは、鷹を好み飼ひける時、「その餌に飼はむ」とて、犬を殺しけるに、胎みたる犬の腹の皮を射切りたるより、子の一つ二つこぼれ落ちけるを、走りて逃ぐる犬の、

昔　　故郷のあたりで　　意外にも突然出家した人がいた。　　出家の原因は、　　射抜いて切ったところ、

忽ち(たちま)に立ち帰りて、その子をくはへて行かんとして、やがて倒れて死にたりけるを見て、発心(ほっしん)せり」とぞ語り侍りし。⑧

すぐに　そのまま　出家の志をもった

⑨鳥獣の情けなきだに、子のためには、かく身にもかへてあはれみ深し。いはんや、人の親の腹の内にやどるより、人となるまで、念々(ねんねん)にあはれぶ志、たとひ命を捨てて孝すとも、報ひ尽さんこと、かたくこそ。

思いやりをもたない鳥獣でさえ、　わが身を犠牲にするほどに　ましてや　熱心にかけてきた愛情は、　難しいことだ。

【「正算僧都の母、子の為に志深き事」『発心集』新潮日本古典集成より　※問題作成の都合上一部改変】

［語注］

＊1野火…野山になどの枯れ草を焼く火のこと。

問一　二重傍線部a～cを現代仮名遣いに改め、全てひらがなで答えよ。

a「ゆゑ」　b「云ふやう」　c「あひぬれば」

問二　波線部A「いと」、B「いとほし」、C「あやし」の文中における意味として最も適当なものを、次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

A「いと」

ア　少々　イ　長い間　ウ　大変　エ　意外にも　オ　やや

B「いとほし」

ア　すばらしい　イ　ありがたい　ウ　似つかわしい　エ　気の毒　オ　優しい

C「あやし」

ア　不思議だ　　イ　粗末だ　　ウ　不吉だ　　エ　不愉快だ　　オ　心配だ

問三　傍線部①「今食はんとする」の省略されている主体（主語）は誰か。次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア　田舎の者　　イ　母　　ウ　正算僧都　　エ　使いの男　　オ　世を遁れたる人

問四　傍線部②「はらはらと涙を流して」とあるがそれはなぜか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア　外は厳しい寒さと強い吹雪が吹いていたため、無事に到着できたことに達成感を感じたから。

イ　いただいた品はとても高価な物であり、初めて食べるその味が涙を流すほど美味しかったから。

ウ　いただいた品は使いの者の大好物であり、この品を食べられることに強い喜びを感じたから。

エ　正算僧都と母の話をしていたら、自分の母のことを思い出してしまい、寂しくなってしまったから。

オ　届けた品は正算僧都の母が髪の毛を売って手に入れた品のため、そこに母の深い愛情を感じたから。

問五　傍線部③「涙」、⑤「ためし」のすぐ後に補うとしてどの語が最も適当か、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

ア　が　　イ　と　　ウ　を　　エ　に

問六　傍線部④「煙の中にかへり入りて」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア　自分の子を手放しがたく思うため。　　イ　鳥獣はとても愚かであるため。

ウ　自分の母を助けに行くため。　　エ　雉の本来の習性であるため。

オ　驚き、慌ててしまったため。

問七　傍線部⑥「みづから胸の毛を食ひ抜きて」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア　身体を軽くし餌をとりやすくするため。
イ　羽毛で卵を覆い、卵を温めるため。
ウ　卵を肌にくっつけて温めやすくするため。
エ　羽毛で卵を隠し敵から卵を守るため。
オ　卵を持って飛べるようにするため。

問八　傍線部⑦「思ひの外に世を遁れたる人ありき」とあるがそれはなぜか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア　撃たれそうになっている子犬を鷹が見つけ、自分の子供ではないが、同じ生き物として子犬を守る鷹の姿を見たため。
イ　腹を撃たれた子犬のところに、一度は逃げた母犬がすぐに走って戻ってきて、子犬をくわえて逃げる姿を見たため。
ウ　子犬が鷹に襲われているときに、母犬が自分の身を犠牲にしてでも子犬を必死に守ろうとしている姿を見たため。
エ　犬に襲われた鷹が、一度は飛んで逃げたが、自分の子供を助けようと、すぐに戻ってきて必死に守る姿を見たため。
オ　腹を射切られ、一度は逃げた母犬が、お腹にいた子犬を助けようと、すぐに戻ってきてくわえて逃げる姿を見たため。

問九　傍線部⑧「し」について、この部分を含む一文中に特別な語があることにより、文末が終止形ではなくなる、「係り結びの法則」が見られる。「し」の活用形を次のア～カから選び、記号で答えよ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

問十　本文の内容と合致することわざとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア　生みの親より育ての親　〈生んでくれただけの実の親より、養育してくれた親のほうがありがたいということ〉

イ　親思う心に勝る親心　〈子が親を思う心よりも子を思いやる親の気持ちのほうがはるかに深いということ〉

ウ　この親にしてこの子あり　〈このような親だから、このような子どもが生まれるというたとえ〉

エ　親の心子知らず　〈親の持つ深い愛情も知らないで、子どもは勝手気ままな行動をしているという非難の言葉〉

オ　竹の子の親勝り　〈子が親よりすぐれていることのたとえ〉